

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年2月18日

事業所名 社会福祉法人 四恩会 チェンジア

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0	0	時にはパーティションの活用を行い空間確保をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	87.5	12.5	0	利用人数に応じて、適切な職員数を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	75	25	0	安全に過ごすことが出来るよう、設備と環境設定に配慮している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100	0	0	毎日のミーティング時に参画できている。また、月1の全体会議にも必ず利用者支援の議題を入れ、話し合う機会を設けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0	0	年に1回アンケートを実施し、保護者の意見等を真摯に受け止め、支援の質の向上につながるよう、業務改善につなげている。	来年度より、年に数回、事業所独自のアンケートを用い、こまめに保護者のご意見や要望を聞く機会を検討している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0	0	年に1回実施した結果を、2月にホームページに公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	100		今年の3月に実施予定。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	0	国や県、市や社会福祉協議会からの研修に参加し、終了後は全職員に研修内容を伝えている。また、年に数回内部研修を実施し、支援の質の向上につなげている。	コロナ感染対策に十分配慮しながら、積極的に研修の機会の確保に努めている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	年に2度、保護者との面談の機会を設け、ニーズの把握に努めている。また、子ども達とも個別に話す機会をつくり、本人の思いを尊重しながら、個別支援計画に反映している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100	0	0	子どもの生活リズムを大切にし、自己を発揮できる環境や遊具等を工夫し、必要に応じて個別に応じたツールを作成している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	0	活動プログラムやお楽しみ会の内容を、会議やミーティングで話す機会を設け、他職員の意見を聞くなどの検討の機会を設けている。また、日々の活動やお楽しみ会のプログラムも利用者で話す機会を設け、利用者の意見を活動に反映できるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0	0	職員や利用者の意見を聞きながら、一人ひとりが楽しく参加できるように、プログラムの内容を固定化しないように工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	87.5	12.5	0	個々に応じた課題を分析し、個々のスケジュールに応じて、取り組む機会を設けている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	集団活動を通して、他児とのコミュニケーション能力や遊びの順番やルールを学ぶ機会を設けている。また、個別活動を通して、個々に必要な技能を身につけたり、好きな遊びを通してリラックスできる内容を計画に盛り込んでいる。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	0	当日にミーティングを行い、当日の利用者の把握と送迎・全体活動・個別活動・利用者担当等の役割について、抜けの無いように確認している。	

適切な支援の提供	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	87.5	12.5	0	すぐに周知しなければならないことはその日のうちに伝え、翌日には必ずミーティングを実施し記録に残し、職員間で情報共有をしている。	新しい職員や勤務時間の異なる職員の共有や周知を深める。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	87.5	12.5	0	毎日、個別記録表に利用者のようすや、支援内容について記載し、日々の支援の検証や改善につなげている。	新しい職員の共有や周知を深める。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100	0	0	半年毎に保護者との面談、モニタリング会議を行い、支援内容の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	87.5	12.5	0	一人ひとりに合わせて、集団活動と個別活動を組み合わせ、支援方法を工夫している。	新しい職員の共有や周知を深める。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0	0	相談員・市役所・児童相談所・学校等、その時の状況に合わせたメンバーを集め、会議を開いている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100	0	0	随時、学校や保護者からの連絡を受け、緊急な迎え等にも対応できるようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	0	100		現在、ケアが必要な児童の受け入れは行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75	25	0	新規の1年生を受け入れる場合は、保育園等の見学や先生達と情報共有を行い、連携を図っている。	情報共有の周知と理解を深める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100	0	0	相談員や就労事業所からの要望に応じて、情報提供を行い、連携を図っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	87.5	12.5	0	事業所で支援や対応が困難と判断した時は、児童発達支援センターや市役所、相談員等に助言を求めている。	支援方法に助言を受けた場合は職員間の周知と理解を深める。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	75	12.5	12.5	地域の中学生や大学生のボランティアの受け入れを行っている。また、お礼として、手紙を出すなどの交流を図っている。	新しい職員の共有や周知を深める。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	100	0	0	市の事業所連絡会に参加し、市役所や相談員、地域の他事業所との関係を図っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	0	その日の送り出しの際に、今日の出来後等を伝え、支援についての情報を共有できるようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100	0	0	ご家族から相談があった時に応じ、助言やツールなどの提案を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	0	契約時に運営規定・重要事項説明書・契約書・個人情報同意書等を用い、利用時の説明を行っている。また、個別支援計画を立てる際も、保護者のニーズ等を聞き、支援の内容についても情報を得て、反映している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	0	保護者から相談があった時は、必要に応じて面談を開き、助言や支援についてのアドバイスをしている。また、内容に応じて、担当相談員や市の担当職員にも情報共有し、対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100	0	0	コロナの影響で今年度は予定が中止になったが、子どもたち主催のお楽しみ会を開催している時に、保護者を招待し、子どもたちの様子を見てもらえる機会と、保護者同士のつながりを密にし、保護者同士で子どもたちの成長や事業所についても話し合える機会を計画する。	今年度は、夏にお化け屋敷を開催し、保護者の参加も求めたが、コロナ感染者の増加に伴い、交流の機会を中止し、時間をずらしながら、お化け屋敷のみの参加に急遽変更した。今後も、保護者同士で話し合える機会や保護者との連携を大事にし、計画を立てたい。

保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0	0	苦情やご意見を頂いた時は、迅速に対応できるよう、体制や報告書等を整備している。また、すぐに上司に報告し、保護者にも謝罪と今後の対応等を伝えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100	0	0	毎年、2か月に1回程度、『ひだまり』の会報を発信し、事業所内の活動や避難訓練等を報告している。	
	35	個人情報に十分注意している	100	0	0	契約時に『個人情報同意書』を用いて保護者に説明し、取り扱いには十分に注意し、必要に応じてその都度保護者に説明し、同意を得ている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0	0	色々なコミュニケーションの方法を用いたり、情報提供についても理解しやすいように工夫し、配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	62.5	12.5	25	お楽しみ会や学校が長期休みの時に、中学生ボランティアや社協登録者のボランティアの受け入れを計画している。また、工作活動で使用する段ボールやボールを頂いた会社に対して、子ども達から手紙を書くなどして交流を図っている。	ボランティア受け入れ以外の交流の機会が少ないため、今後検討が必要。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100	0	0	『送迎時安全対策危機管理マニュアル・火災対策マニュアル・感染症時対応マニュアル・虐待防止マニュアル・自然災害発生時における業務継続計画・防犯マニュアル・怪我熱中症でんかん発作時の対応マニュアル・新型コロナウィルス感染防止事業継続計画』を作成し、職員に説明し配布している。また変更時には随時伝え、情報共有している。保護者には玄関に自由に閲覧出来るよう設置し、また、半年毎のモニタリング面談時に、個別に閲覧・説明する機会を設けている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100	0	0	『火災訓練(5月)・水害訓練(9月)・地震津波訓練(12月)・火災消防通報訓練(3月)』など、様々な災害を想定して訓練を行っている。	ヘルメット・さすまた・緊急時避難袋・非常食・AEDを設置。消防と協力し、緊急時搬送依頼書を準備し、緊急時にすぐに情報を伝えられるよう準備している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	0	年に1回、県の『虐待防止・権利擁護研修』に参加し、職場内で伝達研修を行っている。また、月1の全体会議でも『虐待防止・身体拘束禁止委員会』を開き、検討の場を設けている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100	0	0	現在、対象となる利用者はいないが、対象利用者が利用の場合、個別支援計画への記載等行い、必ず保護者に説明し、同意と了承を求めている。また、行った際は必ず記録に記し、上司と保護者に報告している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100	0	0	保護者より、アレルギーに対しての話を詳しく聞き、排除を徹底している。また、おやつ作りの際は、その都度使用する材料や器具を保護者に確認し、連携を図っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	87.5	12.5	0	今回までのヒヤリハットをまとめ、職員に回覧し、月1回の全体会議でも検討の機会を設けている。	新しい職員の共有や周知を深める。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年2月18日

事業所名 社会福祉法人 四恩会 チェンジA

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0	時にはパーティションの活用を行い空間確保をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	100	0	利用人数に応じて、適切な職員数を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100	0	視覚的にも分かりやすいように、写真や絵のカードなどのツールを用いて構造化し、安全に過ごすことが出来るよう、設備と環境設定に配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100	0	日々消毒等の掃除を行い、必要に応じて清潔を保てるよう心掛けている。また、活動内容では子どもの生活リズムを大切にし、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境・遊具等を工夫している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0	年に1回実施した結果を、2月にホームページに公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	100		今年の3月に実施予定。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	国や県、市や社会福祉協議会からの研修に参加し、終了後は全職員に研修内容を伝えている。また、年に数回内部研修を実施し、支援の質の向上につなげている。	コロナ感染対策に十分配慮しながら、積極的に研修の機会の確保に努めている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100	0		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100	0		

適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100	0		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100	0		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	100		ケアが必要な児童の受け入れを現在行っていない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	100		ケアが必要な児童の受け入れを現在行っていない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100	0		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100	0		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100	0		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100	0		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100	0		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100	0		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100	0		
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100	0		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100	0		

保護者への説明責任等	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100	0		コロナ過に伴い、交流の機会が制限されていたが、今後は地域との交流の機会を設けられるよう計画を立てたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100	0	『送迎時安全対策危機管理マニュアル・火災対策マニュアル・感染症時対応マニュアル・虐待防止マニュアル・自然災害発生時における業務継続計画・防犯マニュアル・怪我熱中症てんかん発作時の対応マニュアル・新型コロナウイルス感染防止事業継続計画』を作成し、職員に説明し配布している。また変更時には随時伝え、情報共有している。玄関に自由に閲覧出来るよう設置している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100	0	『火災訓練(5月)・水害訓練(9月)・地震津波訓練(12月)・火災消防通報訓練(3月)』など、様々な災害を想定して訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100	0	対象利用者が利用の場合、保護者とのアセスメント時に服薬や、てんかん発作の有無を確認し個別支援計画に記載。また対応時の手順書を作成し、保護者と情報共有する。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100	0	対象利用者が利用の場合、保護者よりアレルギーに対しての話を詳しく聞き、排除を徹底する。また、おやつ作りの際など、その都度使用する材料や器具を保護者に確認し連携を図る。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	ヒヤリハットをまとめ、職員に回覧する。また月1回の全体会議に検討の機会を設ける。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	年に1回、県の『虐待防止・権利擁護研修』に参加し、職場内で伝達研修を行っている。また、月1の全体会議でも『虐待防止・身体拘束禁止委員会』を開き、検討の場を設けている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100	0	対象利用者が利用の場合、個別支援計画への記載等行い、必ず保護者に説明し同意と了承を求める。また、行った際は必ず記録に記し、保護者に報告する。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和5年2月18日

事業所名 社会福祉法人 四恩会 チェンジA.

保護者等数(児童数)17 ・回収数15 ・割合 88.2%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100	0	0	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	86.7	0	0	13.3		職員数は必要に応じて配置し、支援の質の向上につながるよう職員の資質向上のため研修の機会を設けているが、子ども達の成長に日々対応できるよう常に学ぶ意識を高めていきます。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	86.7	13.3	0	0		スロープや手すり、バリアフリー以外にも安全に過ごすことが出来るよう工夫する。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100	0	0	0		
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	100	0	0	0		子ども達からも意見を聞く機会を設け、一人ひとりが楽しく過ごせるよう、日々のプログラムを工夫しています。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	40	6.7	0	53.3		中学生ボランティアの受け入れを行っているが、他の機会があまりない為、他の交流が活動できるか検討課題です。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100	0	0	0		契約時に、保護者に説明する機会を設けている。
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100	0	0	0		年に2回の面談時で保護者からの要望を聞き、個別支援計画に沿って、日々の支援を行っており、その日の様子を保護者に口頭で伝えている。今後も、日々の様子や成長、要望について話しあえるよう、日頃より、話しやすい雰囲気作りを心がけています。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100	0	0	0		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	46.6	6.7	6.7	40	コロナの関係上、仕方がないと理解している。	今年度は予定していた保護者会はコロナ急増のため、中止になりましたが、来年度は実施予定です。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100	0	0	0		利用契約時には対応の体制を十分説明するとともに、苦情解決の内容を保護者の見やすい場所に提示する。また、ご意見BOXは入れやすい場所に設置したり、年に数回保護者からの意見や要望を聞く事業独自のアンケート実施を検討しています。

保護者への説明等	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100	0	0	0	面談時に、職員から言われた言葉がストレートだったため、マイナス表現に関しては、間接的な単語で説明を受けたかった。	保護者や子ども達に発する言動には十分に配慮し、相手の立場に立った言動を行い、今後同じことが起きないように、全職員に周知し、支援の質の向上に努めています。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	100	0	0	0		事業者評価の公表についてホームページを更新した旨をご家族に伝え、アンケート結果を広報誌ひだまり(年に数回発行)にも掲載し、保護者へ配布しています。
	14	個人情報に十分注意しているか	100	0	0	0		契約時『個人情報同意書』を用いて、保護者に説明し、同意を得た上で、署名と捺印をお願いしています。また、取り扱いには十分に注意し、使用する際はその都度保護者に説明し、同意を得るようにしています。
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	86.7	13.3	0	0		マニュアル関係は策定し、玄関に自由に閲覧出来るよう置いてあるが、事業所に来所される機会のない保護者の方については、半年毎のモニタリング面談時に、個別に説明を行います。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	86.7	0	0	13.3		年に4回、地震・津波訓練、水害訓練、火災訓練(消防への通報、消防士による実施指導に関しては、コロナ禍のため今年度休止)を行い、月間プログラムにも記載するなど保護者の方にも分かりやすくする。また、子ども達も訓練に参加し活動内容については、広報誌『ひだまり』にも掲載し、保護者へ配布しています。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	93.3	6.7	0	0	いつも子ども達がすごく楽しみにしています	楽しく毎日通っていただけるよう、今後も職員一同、楽しい活動を提供していきます。
	18	事業所の支援に満足しているか	100	0	0	0		今後も、子どもたちと保護者の要望を聞き入れながら、支援や活動に、満足していただけるよう、努めて参ります。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年2月18日

令和 4年度 対象利用者・保護者 なし

事業所名 (社福)四恩会 チェンジA.

保護者等数(児童数)0

回収数 0

割合 0%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか						
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか						
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか						
適切な支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか						
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか						
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか						
	8	活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか						
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか						
保護者への説明等	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか						
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか						
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか						
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか						
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか						
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか						

保護者への説明等	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか						
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか						
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか						
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか						
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか						
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか						
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか						
	23	事業所の支援に満足しているか						

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。